



ルー  
テル

# 藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2022年8月7日

No. 99

洗礼によって、キリストと共に葬られ、  
また、キリストを死者の中から復活させた神の力を信じて、  
キリストと共に復活させられたのです。

コロサイの信徒への手紙 2章12節



礼拝献花より

## 御言葉に生きる

実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。

ローマの信徒への手紙 10章17節

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏  
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009  
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: [fujigaoka@jelc.or.jp](mailto:fujigaoka@jelc.or.jp)



## シリーズ説教

### 『祈りと信頼と』

牧師 佐藤和宏

ルカ11章1〜13節

今日の「特別の祈り」で、次のように祈られました。「あなたは私たちが祈る前から私たちの祈りに耳を傾け、思いと願いをはるかに超えて聞き届けてくださいませ。」

「祈り」が今日の主題であると、当然のように明らかにしています。私たちが祈るように教えられているのは、その祈りを聞く神がおられるからにちがいありません。しかも祈る前からすでに耳を傾け、聞き届けてくださる神について、明らかにされているのです。

そのような今日の枠組みの中で、第一の朗読として与えられた創世記18章20節以下には、アブラハムがソドムの人々のために執りなす様子が描かれています。

「まことにあなたは、正しい者を悪い者と一緒に滅ぼされるのですか。あの町に正しい者が50人いるとしても、それでも滅ぼし、その50人の正

しい者のために、町をお救しにならないのですか。正しい者を悪い者と一緒に殺し、正しい者を悪い者と同じ目に遭わせるようなことを、あなたがなさるはずはございません。全くありえないことです。全世界を裁くお方は、正義を行われるべきではありませんか。」

このアブラハムの訴えは、彼の祈りだと、私は思います。その祈りは驚くことに、主なる神がなされようとするのに対し、「全世界を裁くお方は、正義を行われるべきではありませんか」と訴えているのです。言い換えるなら、「あなたがなそうとしていることは、正義ではない」と責め立てているのです。何となくきれいな、在り来たりの言葉を並べることの少なくない私たちからするなら、なかなか大胆な内容をもった祈りだと思われまます。しかし、主なる神はアブラハムの訴えを聞き入れ、「正しい者が50人いるなら、町全部を赦そう」と言われたのでした。すると、アブラハムはなおも訴えて、「5人足りなかつたら、町のすべてを滅ぼしますか」と言い、主なる神は「45人いれば滅ぼさない」と答えるのでし

た。さらに40人、30人、20人、10人とアブラハムは執拗に執りなし、主なる神はそのたびに、祈りを聞き入れられたのでした。今日の日課は、ここまでになります。続く19章に入ると、その町には10人の正しい人も見出すことが出来ず、主の裁きが決定的となった様子が描かれています。主の前に、何度もすがりつくようになされた、アブラハムの執りなし、祈りは、結局のところ「10人の正しい人」がいなかったために、滅びが決定的となり、聞き入れられなかつたように、私たちの目には映りまます。しかし、ロトとその家族が救われるというちがう形で、確かに祈りは聞き入れられたのでした。

それでは、祈りが聞き入れられたのは、アブラハムが熱心に祈った結果なのでしょう。確かにアブラハムは、主なる神を前に恐れつつも、繰り返して祈りました。アブラハムの求めに答えるように、主なる神は繰り返して聞き入れました。しかしそれは、アブラハムの熱意の結果なのではなく、実は救いが実現することにこそ、神の御心があつたということとなのではないかと、私は思うので

す。つまり、神は滅ぼすことにはなく、救うことに心をとめておられたということです。その神の御心が実現するように、私たちは執拗に祈ることを通して参与するのです。

「父よ」との呼びかけは、神への全き信頼を表していることを聞きました。「日毎の糧」も、主が恵みのうちにくださる、その日の必要を満たす、御心を聞きました。「罪の赦し」についても、それは決して条件ではなく、私もすべての人々と共に、すでに赦されているという事実を耳にしました。そして今日触れていない願いを含めて、すべてがイエスの祈りを前提としていることを知らされるのです。アブラハムが執拗に祈り、救いを実現しようとした以上に、主イエスは私たちのために、絶えず祈り、救いを実現されるのです。絶えず祈られている私たちがいます。すでに赦されている私たちがいます。その祈りを十字架という形で示された、主に信頼し、安心して、そして喜んですべての人々のために祈る群れとされてまいりましょう。

(聖書降臨後第7主日)

## 父の最期

○藤○子

昭和55年、明治生まれの頑固で躰に厳しかった父の灯が消えかかっていたとき、「○藤二等兵、食事を持っ  
て来ました！」と寝ながら敬礼を始めた。その姿があまりにも哀れで涙して「赤でんわ」に投稿した。

昭和13年、日清紡のエンジニアだった父は、第一次世界大戦後に日本が権益を得た、ドイツ人が多く住んでいた中国の山東省青島へ転勤させられた。ドイツ人が築き上げた街は、それはそれは、美しく戦後まで文化生活に恵まれていた。

それなのに大東亜戦争の敗戦の色濃くなった昭和20年3月、青島の奥に駐屯していた福岡部隊に父は召集されて行った。そこには女学校を出て報国看護婦として勤務していた長女(姉)がいた。兵歴がなく不器用な父は、鬼の上等兵にいじめの標的にされ、位の上である娘の方へ食事を運ばされた。そして「○藤二等兵……」とやらされ娘に敬礼、頭を下げる。父親として威厳を失くされ、横で笑って見ている上等兵、どんなに

口惜しかったのだろう。亡くなる前までこの話をしなかった父。

昭和21年、日本に帰り日清紡に勤め停年になってからは、台湾へ技術指導に行った。

それぞれの場所で、青春を謳歌していた父の最後のときの言葉が「○藤二等兵……」とは、あまりにも哀れで悲しい言葉だった。

※「赤でんわ」読売新聞の投稿欄。

## 「母達の戦争」

江○○子

今年二月、冬期オリンピックの興奮冷めやらぬ時、世界中に衝撃が走りました。

ロシアによるウクライナ侵攻というショッキングなニュースが報道され、まるで戦争映画を見ているようでした。私の心には強い痛み、悲しみが押し寄せたと同時に「平和って何だろう」という疑問が湧いてきました。

その時、私の母と義母が時々話していた戦争の事を思い出しました。私の聞いた母達の話しは、単に戦争

の悲惨さを伝えるだけでなく、これからの時代を担う人々に改めて平和の大切さを守り続けていく気持ちを持つてほしいとの願いから筆を取りました。

## 「母の終戦」

二十年前に亡くなった母は戦時中、勤労動員でお勤めをしていたそうです。1945年5月29日、通勤途中で横浜大空襲に遭遇し、命からがら山下公園の防空壕に逃げ込んで助かり、空襲後の惨状を目の当たりにしたと。あまり戦争については語る事はありませんでしたが、5月になると涙ながらに私達には当時の様子を話していました。

そして8月15日の終戦の日、日本の敗戦を聞いた夜、電灯を覆っていた黒い布を外し、庭に出ると、ポツポツと家々の灯りを見て、やっと戦争が終わり嬉しい気持ちと安堵した気持ちで胸がいっぱいになったそうです。

きっと母は町の灯りに希望をみたのでしょ。

## 「天草の特功隊」

天草に特功隊の基地があった事はあまり知られてませんが、3年前天草の実家に帰った時に仏間の棚に数枚の写真を見つけました。終戦の年に急遽、特功隊発進基地ができて主人の母の家で食事を供した時の写真です。近くの資料館には慰霊碑が建てられ、写真や手紙、資料が並べられ、月明かりを頼りに天草の海の近くの基地から出撃したと書かれています。どのような気持ちで出撃したのか、また見送った母や家族の気持ちを考えると胸が痛みます。そして、小さな村の母の父親は敗戦色が漂う頃に召集されてシベリア抑留となり、再び天草の地を踏むことはありませんでした。

この原稿を書いている間もウクライナの状況は変わらず、今もなお多くの涙が流されています。「悲しみに慣れてはいけない」と言うのを聞いて、私にできる事は祈り続けるだけです。

神様は私達人間を互いに憎み、傷つけあい、戦いをするために命を与えて下さったのではありません。

どうか一日でも早く戦いのない平和な世界が戻りますように。

●松○○子さんより

昨年夏に圧迫骨折になりました。今のところ、特に悪化したわけでもなく、検査でも特に骨の異常はありませんでした。

教会に行きたいと言う気持ちは重々ありますが、長い時間を同じ姿勢でいることや礼拝堂の椅子に座っているのが辛く大変なのです。体調が良くなりましたら是非とも教会に行き、皆様と一緒に礼拝に参加したいと思っております。今はそれが一番の楽しみです。

女性会 ウクライナ支援

物品販売について

○田 ○子

今、日本に居て、連日のウクライナ戦争を報じるテレビ映像を見て、一人人として心を痛めています。

破壊された街や避難する人々の悲惨な光景を前にして、戦争という異常事態の中に生きるウクライナの方々に対して、何もできない、何の力にもなれない自分自身の無力さを感じています。

そこで女性会の方々と話し合い、今まで作ってきた手工芸品やカード

等々を教会の方々に販売させていた

延期となりました。尚、カードやツナ缶等は日常的に販売しておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

7月17日の礼拝後に、物品販売の第1回を実施させていただきました。24日には第2回を予定していましたが、コロナ感染第7波のために

この時代にあつて、なお戦禍に苦しんでおられるウクライナの方々のことを思い、「ウクライナに平和が訪れますように」と、切に祈ります。

■牧師室より

月報が現在の形になって、来月で100号を迎えます。1983年11月に最初の礼拝を開始して、この11月で40年目に入ります。2023年は『宣教40年』、藤が丘教会にとって、節目を迎える一年となります。

定する、確認する」という意味の言葉で、『アフメーション』とは洗礼を受けたことを確認する式(信認式)になります。日本の式文には記載がなく、馴染みがない方も少なくないでしょう。しかしアメリカルuterン教会の式文に記載されており、年に一回この式を実施して、洗礼を思い起こす良い機会となっております。大切なことですので、40年を機に、今後実施してまいりたいと考えています。

昨年来、ご協力をいただきましたアンケート(デルファイ法)によって、皆さんの声を集めさせていただきました。これを用いて、宣教40年の宣教計画にしたいと思っています。また、行事計画にありますように、今年の創立記念日には、『アフメーション』を実施したいと思

11月までに、数回、この式についてご紹介させていただき、洗礼を確認する式への準備の時となればと願っています。(佐藤)

今月の受洗記念日の皆さん

24日 ○田○郎兄

おめでとうございます。



「実は、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。」ローマの信徒への手紙 10章 17節  
福音が伝道ウェブサイト <https://www.jfc-fujigaoka.org/>  
フェイスブックで礼拝のライブ中継をしています。(毎日朝11時から10時半)